

(様式8)

公共事業終了箇所評価調書

評価確定日(平成21年 7月31日)

事業コード	H21-農-終-11		区 分	● 国庫補助 ○ 県単独
事業名	林道事業		部 局 課 室 名	農林水産部 水と緑の森づくり課
事業種別	フオレスト・コミュニティ総合整備事業		班 名	治山・林道班 (tel)018-860-1945
路線名等	登川山の田線		担 当 課 長 名	水と緑の森づくり課長 池田光晴
箇所名	羽後町飯沢畠原		担 当 者 名	加賀貞寿
総合計画との関連	政策コード	8	政 策 名	自給力、需要創造力を高めよう農林水産業
	施策コード	5	施 策 名	森林整備から木材加工・販売までの一貫した体制の構築
	指標コード	2	施策目標(指標)名	林道・基幹作業道密度(累計)

1. 事業の概要

事業の背景及び目的	羽後町と湯沢市を結ぶ連絡線形として利用区域内の森林の適切な整備と、森林施業の効率化を図るとともに山村地域の活性化に資する林道として開設を行う。 また、当路線の開通により、森林整備の基盤として利用されることはもとより、羽後町飯沢地区と湯沢市上院内地区との短絡路線としての役割も期待されている。					
事業期間	前回(H15年) H4年 ~ H19年 終了 H4年 ~ H19年	総事業費	前回(H15年) 25.9 億円 終了 21.3 億円	国庫補助率	1/2	
事業規模	前回(H15年) 森林基幹道 幅員5.0m、延長12,000m、利用区域面積979ha 終了 森林基幹道 幅員5.0m、延長11,903m、利用区域面積983ha					
事業効果の要因変化及び発現状況		前回評価計画①	最終②	増減②-①	理由	
	事業費	2,590,000	2,132,440	-457,560		
	経内費	工事	2,590,000	2,132,440	-457,560	
		用補			0	
		その他			0	
	事業内容	幅員5.0m、延長12,000m、	幅員5.0m、延長11,903m、			路線、線形の見直しおよび、L型擁壁の採用により、コスト縮減がなされた。
要因変化	コスト・効果対比較		費用便益変化の主な要因(前回評価→終了)			
	○最終コスト 終了C②/前回評価C①=(82%)		【便益】 ・大きな変化はない。			
	○費用便益 前回評価B/C=(2.54) ↓ 終了B/C=(2.48)		【費用】 ・路線、線形の見直しおよび、L型擁壁の採用によりコスト縮減がなされた。			
目標達成率	指標名	林道・基幹作業道密度(累計)				
	指標式	林道・基幹作業道延長/私有林面積				
	指標の種類	○ 成果指標 ● 業績指標	低減指標の有無		○有 ●無	
	目標値a	6.4m/ha		データ等の出典		
	実績値b	6.3m/ha		林道事業実績報告		
	達成率b/a	98.4 %		把握の時期		
	指標を設定することができなかった場合の効果の把握方法 ○指標を設定することができなかった理由及び把握方法と成果 ※データの出典含む					
	-					
自然環境の変化	特になし					
社会経済情勢の変化	特になし					
事業終了後の問題点及び管理・利用状況	問題点、特になし。 管理、事業完成後羽後町、湯沢市に移管、羽後町、湯沢市で管理を実施している。					

住民満足度等の状況 (事業終了後)	①満足度を把握した対象 ● 受益者 ○ 一般県民 (時期:平成20年 8月) ②満足度把握の方法 ○ アンケート調査 ○ 各種委員会及び審議会 ○ ヒアリング ○ インターネット ● その他の方法 (具体的に、市役所職員担当者からの聞き取り調査及び入山者からの聞き取り調査) ③満足度の状況 森林の整備・保全はもとより、羽後町～湯沢市の地域間交流の推進が図られるとともに、山菜採り等に利用・親しまれており、地域住民のみならず、利用者の満足度は高い。
上位計画での位置付け	「雄物川地域森林計画」に林道整備路線として、当該路線が計画されている。
関連プロジェクト等	地域再生計画(計画名称:人が輝き、人が生きるまちづくり計画)を策定し、住民交流の促進や、間伐材などの市場流通の活性化による、山村地域の生活向上を図るため、当林道と町道蒲生上の沢線の整備が実施されている。
前回評価結果等	●選定または継続 ○改善 ○見直し ○保留又は中止
	①指摘事項 なし
	②指摘事項への対応 -

2. 所管課の自己評価

観点	評価の内容(特記事項)	評価結果
有効性	①住民満足度の状況 ●A ○B ○C 市役所及び町役場職員から聞き取りを行ったところ、利用者及び地域住民の満足度は高い	○A
	②事業の効果 ○A 達成率100%以上 ●B 達成率80%以上100%未満 ○C 達成率80%未満 達成率 98.4 %	●B ○C
効率性	①事業の経済性の妥当性 ●A ○B ○C 事業の費用便益比は2.48であり、妥当である。 総費用3,553,068千円、総便益8,815,301千円(評価時・H21価格で比較)	●A
	②コスト縮減の状況 ○A 縮減率20%以上 ○B 縮減率20%未満 ○C 縮減なし	○B ○C
総合評価	○A (妥当性が高い) ●B (概ね妥当である) ○C (妥当性が低い) 各観点の評価結果から、事業箇所としての有効性及び効率性も高く、概ね妥当である。	

3. 評価結果の同種事業への反映状況等(対応方針)

事業実施にあたっては、コスト縮減に取り組むとともに、森林の適切な整備、保全及び森林施業の効率化を支える基盤として、有効活用がなされる林道開設を推進する。

4. 公共事業評価専門委員会意見

県の対応方針を可とする。

○総合評価の判定基準

総合評価の区分	判定基準	総合評価
A (妥当性が高い)	全ての観点の評価結果が「A」判定の場合	B
B (概ね妥当である)	「A」判定、「C」判定以外の場合	
C (妥当性が低い)	全ての観点の評価結果が「C」判定の場合	